

成果と課題

【成果】

○生徒の受け止め

- ・統括団体によるクラブの運営に関して参加者中87%の肯定的回答
- ・部活動の指導を顧問の教員ではない「休日の外部指導員」が指導することについてどう思いましたか?」という問い合わせに対し「良かった」と回答した生徒が28%の肯定的回答(「どちらとも言えない」が64%、「良くなかった」が8%)
生徒からは「レベルの高い指導が受けられる」「基礎をしっかりと教えてもらえる」など回答が得られ、専門的な指導を行える指導員の導入によって、練習の質の向上に一定の効果が見られた。

○顧問(担当教員)の受け止め

- ・「外部指導員を導入し、得られた効果についてあてはまるものすべて選択してください。」という問い合わせに対し、技術的な細かい指導を外部指導者に任せることができた100%・他の業務に取り組む時間ができた80%と一定、肯定的な受け止めが見られた。
- ・「指導員を配置して、ご自身の負担軽減につながったと思いますか?」という質問には、67%(6名中4名)が「思う」と回答
- ・「教員としてのすべての業務を100%とした場合、どの程度負担軽減されたと感じますか?」という質問に対して、平均すると17%が軽減されたと回答が得られたほか、中には9時間以上の業務時間の削減につながった教員がいたことも報告され、これまでの業務のうち、部活動が占める割合が一定程度大きなものであったことが分かる。

成果と課題

【課題】

○運営団体について

- ・同業種を担う民間企業がいないことによる競争性の低下がもたらす質の担保
- ・運営団体から派遣される指導員が急遽欠員となった場合の対応
- ・緊急時対応についての明確なスキームが必要

○学校部活動との区別・認識・学校の関与について

- ・特に年度初めにおける運用については、引継ぎ等学校や顧問との連携が必要となる
- ・現状、存在する部活動、同じ活動場所という側面から、部活動と地域クラブの生徒(保護者)の意識の切り替えが難しい
平日は「部活動」土日祝は「地域クラブ」と明確な線引きが難しい
(アンケートより「部活動の指導体制について、どの形が望ましいと思いますか?」の問い合わせに対しては、
平日は学校の顧問教員、休日は外部指導員:44% 学校の顧問教員と外部指導者が一緒に指導:24%) 生徒回答
- ・緊急性のある対応や生徒との関係性から、顧問の先生に頼らざるをえない状況下にある。
特に平日は「部活動」として活動するため、認識の疎遠につながる懸念がある

○委託事業としての継続性・受益者負担の関係

- ・事業継続に向けた予算の確保が必要
- ・受益者負担の必要性の検討

課題を踏まえた今後の取組

取組案①

○継続した統括運営団体による運営

- ・継続試行という点から、課題に対しての対応策を具体に協議し、引き続き継続することで課題の対応を図り、向上につなげる
- ・別学校/別クラブでの受け入れ運用による検証
- ・規模の拡大による影響(義務的負担や運用面など)の検証

取組案②

○継続した統括運営団体による運営と教職員を指導員とする新型

- ・教職員を指導員とする(兼職兼業)スキームとして、統括運営団体に所属し、運営団体から自校の部活動へ派遣する仕組みの構築
- ・部活動(クラブ数)の拡大による効果影響と事務手続き等の検証
- ・教職員の兼職兼業モデルとしての課題の明確化(労務管理等)
- ・運営費の拡大による予算の確保

成果と課題

【成果】

○生徒の受け止め

- ・部活指導員の運営に関して参加者中82%が肯定的に回答。
- ・「みんなにつきっきりで教えてくれるし、練習もしっかりしているから。」「細かくわかりやすく教えてくれるから」など専門的な指導や細かな指導が肯定的な理由として挙げられている。

○顧問(担当教員)の受け止め

- ・「部活動の指導に当たって大変助かっている」と、指導員の配置に肯定的に回答。

【課題】

- ・学校のニーズに沿った指導員の確保(人材確保)
- ・学校の要望に応じた円滑な配置が困難(スピード感をもった採用と事務手続き)
- ・緊急性のある対応や生徒との関係性から、顧問の先生に頼らざるをえない状況(指導員と顧問(担当教員)の役割分担や関係性)
- ・予算措置
- ・事務執行担当課の負担増

課題を踏まえた今後の取組

- ・府の人材バンクの活用・広報を中心とした周知・部活動指導協力者からの配置転換の提案など
- ・年度内における学校配置計画の実施など